

# あくせす news

第 237 号  
2022年3月14日  
発行者  
呉市医師会病院  
地域医療福祉連携室  
あくせす

啓蟄の候、虫や草花の様子にも少しずつ春が感じられるようになりました。人間も厚手のコートやセーターを片付け、春を迎える準備をしたい今日この頃です。さて、先生方にはいつも **あくせす** をご利用いただき、誠にありがとうございます。一層のご利用・ご紹介のほど、よろしくお願いいたします。



## 退職のご挨拶

このたび、年齢・体力の問題で次の緩やかなステージに進むことを決めました。当時担当理事をされていた豊田先生・高木先生に生後6ヶ月の娘を連れて採用面接をしていただいたのが私の医師会での出発であり、その娘は今年で38才になります。



看護部長就任時  
(2003年)

就職から3年後に病棟主任、34才岸榎執行部で婦長、44才青山執行部で看護部長、豊田執行部で副校長、原執行部で副院長、そして60才玉木執行部で統括部長に任命されました。

長い医師会時代の中で一番辛かったのは皆さまご存知の寮の件です。迅速で適格な対応で原執行部に助けていただきました。嬉しかったのは素晴らしい人財に恵まれたことです。勝田・伊藤・大城・中西・中塚院長と優秀な先生方の指導を受けました。山根総婦長・田中看護部長の背中を追いかけました。何百人と出会い、一緒に仕事をし、別れを経験しました。スタッフだけでなく多くの患者さんからも人生に於いて大切なことを学ばせていただきました。

会員の先生方におかれましては、ひとかたならぬお力添えをいただき、お一人お一人にご挨拶すべきところですが、コロナ禍のためそれも叶わず心苦しい限りです。

これからも呉市医師会病院は続きます。中塚院長はまだまだお元気です。風呂本看護部長は3年目を迎え、ますます張り切っています。先生方にはどうかこれまで以上のご利用、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

37年間、本当にありがとうございました。会員の先生方およびお世話になった全てのみなさまのご健康とご多幸をお祈り申し上げて最後の挨拶とさせていただきます。



副院長兼統括部長 土井田 あや子

## 呉市医師会病院関係医師懇談会のご案内

演題：「乳腺外来開設後8年をふりかえって  
加えて、乳癌診療の最近のトピックス」

講師： <sup>はるた</sup>春田 るみ 先生（広島中央健診所クリニック）

2022年3月22日（火）19:00～ 呉市医師会館 5階講堂（WEB配信あり）

毎週水曜午後と第2・第4土曜日午前に乳腺外来を担当していたいただいています。多くの先生方のご参加をお待ちしています！

★2月1日～2月28日★

※届出日数(地域包括ケア病棟、障害者病棟等を除く)

平均入院患者数	平均病床利用率	平均在院日数*	紹介外来患者数	医療相談患者数
121人	61.1%	22.1日	90人	86件

# 令和3年度 医師会職員研究発表会 報告

呉市医師会では年に一度、全職員を対象とした「職員研究発表会」を行っており、各部署の現場における改善の取り組みや事例報告、実証的な研究の発表を行っています。今年度は2月に開催を予定していましたが新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、会場開催を中止し誌面での発表になりました。



## ■ 当院におけるHMネットの現状と課題

地域医療福祉連携室 森下 香織

当院は2015年から参照施設、2020年から開示施設としてHMネット（ひろしま医療情報ネットワーク）に参加しており、当連携室がHMカードを発行する業務を行っている。現在、院内で医療情報が参照できるのはユーザーIDが発行された医師およびHMネット担当者のみであり、院内職員にあまり周知されていないため、HMネットの主要な機能や関連する業務内容および実績、今後の課題について発表した。引き続き多職種でグループウェアの機能を積極的に活用し、問題点を県医師会にフィードバックしていくことでHMネットの機能改善に繋がってきたいと考える。



## ■ VEGF 阻害剤によるストーマ周囲の創傷管理に難渋した1例 4階病棟 加藤 みどり

手術部位感染（SSI）及び化学療法の血管新生阻害により、ストーマ周囲の創傷治癒遅延を来し、術後4ヶ月目に創傷管理継続目的で当院に入院した患者の事例報告を行った。人工肛門尾側の皮膚潰瘍や正中創からの滲出液の漏れや悪臭、創に付着した便を洗浄した時の痛みがあり、患者のストレスが増強したためストーマケア方法の見直しを行った。皮膚潰瘍の治癒促進を優先し、漏れる前の装具交換を計画した。その結果、創への便汚染を回避し、皮膚潰瘍は縮小した。また、便が漏れないことで患者の精神的な安定も図ることができた。この症例を通じて患者それぞれの状態に合ったストーマケアが重要であると改めて認識した。



## ■ 新型コロナウイルス感染症対策からみえてきた標準予防策の重要性

～个人防护具の適正使用・手指衛生の遵守・環境整備について～

6階病棟 石川 愛子

新型コロナウイルス感染症は現在も終息することなく人々の暮らしや医療を脅かしている。6階病棟に入院している患者は自ら感染予防策を講じることができない患者が多く、患者やスタッフを感染から守るための感染対策を振り返り、また学ぶ必要があると考えた。个人防护具の適正使用・手指衛生の遵守・環境整備について病棟スタッフにアンケート調査を行い意識調査・現状の確認を行った。その後正しい使用方法やタイミング、環境整備の統一について声掛けやカンファレンス、ベストプラクティスを通して意識づけを行い、標準予防策について共通の認識を持つことができた。



## ■ 検体落下による溶血 — 測定値への影響 —

検査センター 久保 智美

当センターでは院内外から検体を集荷しており、その中には溶血している検体もある。検体を運搬する際に落下させてしまうことがあるため、検体が溶血する様々な要因の中から、検体の落下による影響について実際に落下テストを行い、測定値への影響を検討した。実験では落下した検体と落下していない検体を比較して、測定値には大きな変化は見られなかったが、溶血の影響を受けやすい項目については若干上昇しており、落下による物理的衝撃により上昇したと考える。高齢者や赤血球膜が壊れやすい脂質異常症などの患者は健常人に比べ落下による影響を強く受けると推測されるため、取り扱いには充分注意していきたい。



呉市医師会病院 地域医療福祉連携室 あくせす

<http://www.kure.hiroshima.med.or.jp/hp/>

電話 (0823) 32-7576 (直通) 院長 中塚 博文 MSW 森下 香織 MSW 菅原 淳子 MSW 巻幡 成実  
FAX (0823) 32-7507 室長 中間 千穂 事務 中野 浩美 事務 向井 梨恵 事務 住吉 美濤

